

## 奇跡の尼いも

尼いも（あまいも）とは、兵庫県尼崎市が原産の芋です。一時は、絶滅したと思われた尼いも… その幻のいもが奇跡の復活を遂げます。詳しくは、本文後半に解説します。

上坂部西公園 緑の相談所（尼崎緑化公園協会）のご厚意で、栽培委員会で尼いもの栽培に取り組むことになりました。協会の職員さん達に色々教わりながら、育てていきます。黒のマルチシートに割り箸で穴を開け、そこに苗を植えていきます。このシートは、雑草の繁茂防止、地温の調節、肥料の流亡を防ぐ、水分蒸発を抑える等の効果があり、世話の軽減や収量の確保に役立ちます。子どもたちも、これまでの植え方とは違ったやり方に、興味津々です。見て、触れて、育てる…今後の成長が楽しみです。



### 尼いも とは

尼いもは尼崎市原産の芋で江戸時代（1789年-1801年ごろ）、現在の尼崎市に当たる尼崎町南部の初島両新田地帯で栽培を開始されたとされています。土質が小石混じりの乾燥した、栽培に適した地域とされていたサツマイモで、京阪神の料亭などに数多く出荷されました。

しかし、1900年代後半における室戸台風とジェーン台風による浸水被害により農場が被災。尼いもは衰退することになりましたが、2000年になって市民が「甘くておいしい尼いもをもう一度口にしたい」という機運が高まり、尼崎市の公害地域の患者が中心となった「尼崎公害患者・家族の会」が立ち上げた「尼崎市南部再生プラン」の一環でその復興プロジェクトがスタートします。

その幻となった尼いもを求めて全国を訪ね、茨城県にある農業研究センターにて、「尼崎赤」「四十日蒞（いも）」「源氏」といわれる尼いものルーツとなる芋の種を発見し、これを持ち帰って農家に協力して試験栽培を行い、2001年からは「尼いもクラブ」が創られ、現在は「四十日蒞」に特化して「尼いも」の再生に取り組み、学校の農栽培授業や、農家、家庭栽培で尼いもの再生に勤めています。また、尼いもを利用したスイーツや焼酎なども市販されています。

「四十日蒞」の一種であり、味は甘め。太さ直径1cm、長さ20cmの細長め。毎年9月、鳴尾村（現・西宮市）の農家に種芋取りを依頼し、11月ごろに掘り出して持ち帰ります。その後次の年の3月まで芋苗床で苗取り・作付けをします。7-8月ごろに収穫し、8月24日の地藏盆に向けてお供えに使われるそうです。

出典：Wikipedia「尼いも」 尼いもクラブのHP「尼いものすべて」